



水の  
あま  
ま

の本  
つめ  
した

の  
つ  
し

まずは絵本、漫画から！大人のみなさんもぜひ

# 水を知る

Vol.  
01



災害や事故で断水になったり、トイレが流せなくなったり、そんなときには「水」が話題になるものの、蛇口から水が出ることやトイレが使えることに感謝して毎日を過ごす人はそう多くないはず。

「水」にもっと関心を持ってもらいたい。字が読める前の子どもでも、「水」の絵本に触れ、ページをめくるだけで、きっと「水」への意識が芽生え、感度が高まるはず。そんな思いを抱いて図書館から借り集めた絵本や図鑑には、専門的な内容がわかりやすく説明されていて、上下水道の初心者が知識を深めることができるものばかり。

地理、歴史、災害や環境問題にも目を向けて取り揃えた約100冊の書籍の中には、すでに絶版となったもの、非売本、貴重な寄贈本、珍しい装丁本や作家のサイン本もあります。

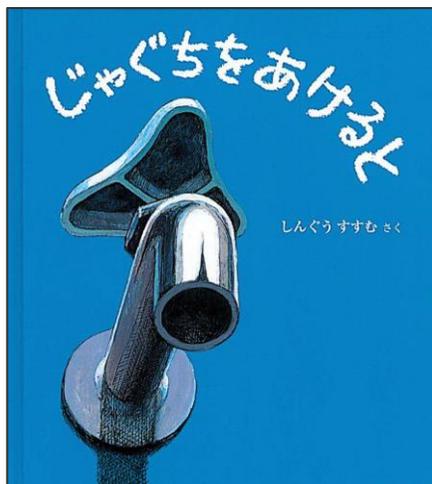
「水」のファンが増えますように。



# じゃぐちをあけると

新宮晋 作  
福音館書店

色鉛筆、クレヨンと絵具を使って描かれたじゃぐちと水。台所にあるコップやスプーン、フライパンが登場して、水がいろいろな形に変化します。これを読んだ子どもは、台所で水遊びをしてみたり、画用紙にじゃぐちを描き出すかもしれません。この本の作家新宮晋さんは、豊中市出身。風で動く屋外作品が、市内の施設に設置されています。



# みず

五味太郎 作  
絵本館

「みず」を数文字のひらがなで形容詞をつけるとしたらどんな単語が浮かびますか？つめたい水？きれいな水？うめいな水？絵本作家の五味太郎さんが表現する「みず」は、子どもに身近なものがいっぱい、ワクワクします。公園やはらっぱなど屋外で読むのもおすすめです。



# じゃぶじゃぶじゃぐちくん

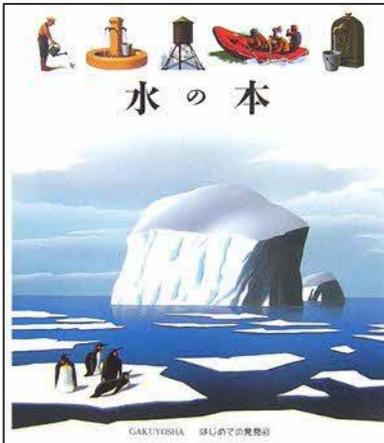
新井洋行 作  
講談社



感染症の流行で、手洗い・うがいは、すっかり定着しましたが、公園遊びから帰った子どもは、おやつのがりがかりです。そんなとき、「じゃぶじゃぶじゃぶじゃぐちくん」。リズム感たっぷり、「じゅもん」を唱え、きつとじゃぐちに直行して、手洗いすることでしょう。自ら進んで手を洗って食べるおやつは最高ですね。

## 水の本 はじめての発見 43

ピエール・マリ・バラ 原案・絵  
岳陽社

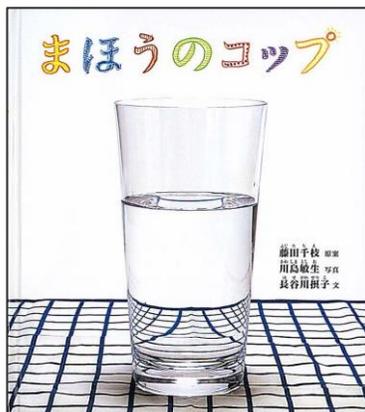


表紙を開けると、水に覆われた青い地球。と同時に、あれ？この本はリング綴じ？いつもと違う形状の本に引き込まれて、次に進むと…。しかけのページをめくりなおして、ビフォー・アフターを比べてみましょう。元は海外の本なので、景色を描いたイラストはとても雄大です。「水」が普遍だとわかる「はじめての発見」シリーズの一冊。

# まほうのコップ

藤田千枝 原案／川島敏生 写真／長谷川摂子 文  
福音館書店

これを読んだあとには、「たねもしかけ  
けありません。ただのコップにただ  
のみず。これがまほうのコップです。  
」とマジシャンになって実演したくな  
ります。あなたのまわりにある、大き  
さや形の違うコップを使って、いろん  
なまほうをかけてくださいね。色をつ  
けたり、凍らせたり、形状も変えてみ  
てください。



## まえとうしろどんなくるま？ さいがいでかつやくするくるま

こわせ もりやす 作  
偕成社

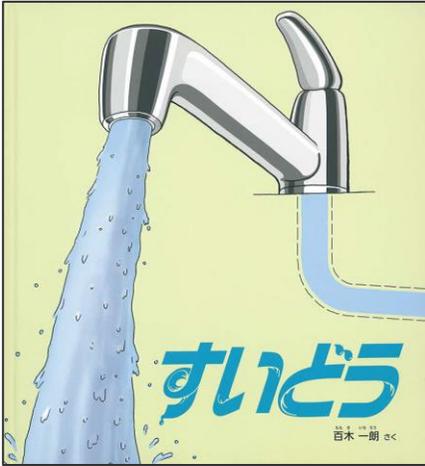
給水車は、災害時の断水時に、安全な  
水をお届けする車です。豊中市では、  
災害時に、被害状況に応じて、給水所  
を設置しています。設置場所や混雑状  
況は、スマートフォンやPCからリア  
ルタイムに確認できます📱



豊中市応急給水ポータルサイト  
<https://toyonaka.elcompath.com/waterSupplyPortalMap>

# すいどう

百木 一朗 作  
福音館書店



道路の地面の下には、水が流れる道（＝水道）、水が流れているパイプ（＝水道管）があります。あなたが使った水は、循環して再び利用されています。水が大切な資源であることがわかる一冊です。表紙のイラストは、阪神淡路大震災後、下から上にあげて使用する型に改良された水道レバーです。

# おしっこ、うんこはどこに行く？

中川 ひろたか 作／カワチ・レン 絵  
アリス館



男の子は、おしっこやうんこはどこに行くのか、おとうさんと、ちいさくなる薬を飲んで、トイレの中に飛び込みます。カラフルな色で描かれていることもあって、ストーリーに吸い込まれて、下水道のしくみを知ることができます。ひらがなだけの本ですが、イラストを追うだけでも楽しめる本です。

# みずちゃぼん

新井 洋行 作

童心社

白地に描かれた水色の「水」の顔がかわいらしくて、読んでいるほうもにっこりしてしまう本です。水色の絵の大きさと、そえられたシンプルなひらがなだけで、「水」の形状や流れが伝わってきます。雨の日やお風呂あがりの読み聞かせにおすすめの一冊です。



# しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ 作／ボフダン・ブテンコ 絵

福音館書店

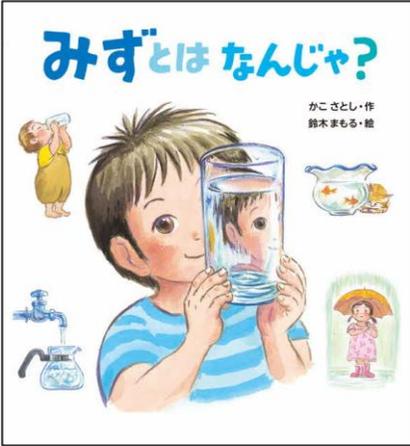
ある「水曜日」にバケツからとびだした「しずく」が、色を変え、形を変えて、旅します。ひらがなだけの本ですが、字が読めなくても、イラストだけで、しずくの旅の様子が読みとれます。小さな子どもが、私たちの生活には水が欠かせないことや、水が循環していることなどをはじめて知るきっかけになる本です。



## みずとはなんじゃ？

かこさとし 作／鈴木まもる 絵  
小峰書店

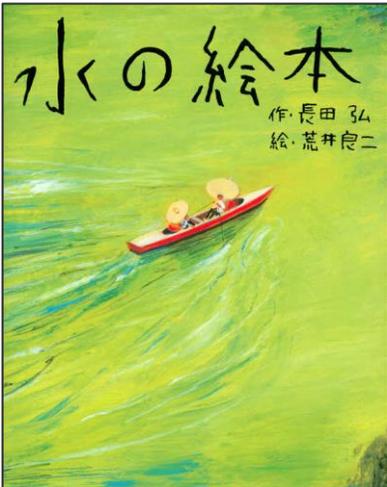
水には、においも色もありません。水蒸気や氷にもなります。私たちの体のなかの半分は水分でできています。水とは、いったいどんなもので、どんな性質があるのでしょうか。児童文化の研究者でもあるかこさとしさんの遺作は、ある「だいじなこと」を伝えています。大人にもお薦めの一冊です。



## 水の絵本

長田 弘 作／荒井良二 絵  
講談社

詩人長田弘さんと絵本作家荒井良二さんによる「空の絵本」「森の絵本」と共におすすめの一冊。水の大切さ、偉大さ、美しさが伝わってきます。透き通っている「水」はどんな色にもなれる。どれも「水」なのに、様々な色で表現されています。「水」と、夢に向かう「子どもたち」、可能性を秘めた「子どもたち」が似ていると感じます。



# 都市の下をのぞいてみれば…

エスター・ポーター 文  
アンドレス・ロザノ 絵  
六耀社

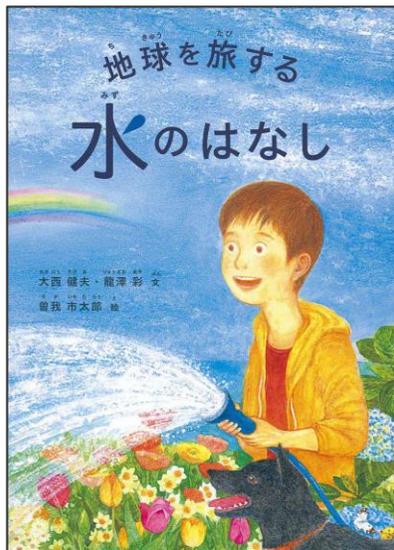
「地下」をのぞいて、生活と密接にかかわる電気、ガス、水道、下水道に関する管が通っていることを知ることができます。本のページを縦にめくるので、「地下」感が伝わってきます。ニューヨークの下水道で、「ワニ」が発見されたことがあるそうです。豊中市の「マチカネくん」も「地下」で発見されました。



# 地球を旅する水のはなし

大西 健夫・龍澤 彩 文／曾我市太郎 絵  
福音館書店

やさしくて繊細なタッチのイラストで、小さな川から、大きな川、広い海をめぐる、そして形を変えて空へ、空から地面への旅が描かれています。世界と時空を超えて、水を通して「つながっている」ことを感じる絵本。巻末には、水が運ぶ物質や水の循環を研究する「水文学者」による解説もあります。



# なんてくさいんだ！

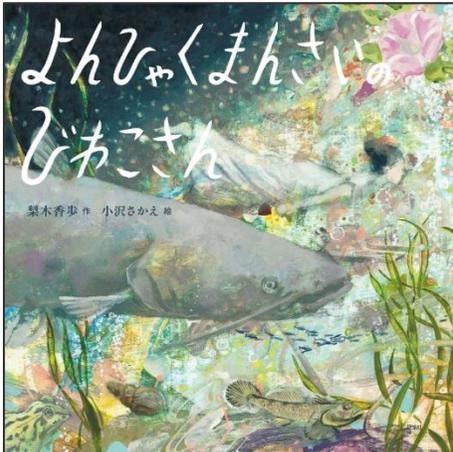
コリーン・ペフ 文  
ナンシー・カーペンター 絵  
あかつき教育図書



イギリスでは、人口が増えた1800年代コレラが流行。当時、原因は「くさい空気」だと思われていました。汚れた水を飲んでいたことが原因だと気づいた、土木技師の活躍がわかる絵本。いまなお、世界には、衛生的なトイレがなく、安全な水が手に入らない国や人がいることにも目を向けてみましょう。

# よんひゃくまんさいの びわこさん

梨木香歩 作／小沢さかえ 絵  
理論社



「わたし」は海に帰りたくて、ハマヒルガオ、ハマゴウところをひとつに海をめざします。行きついた場所は…。昔々、琵琶湖は三重県伊賀市あたりにありました。長い長い時間をかけて、少しずつ少しずつ、今の場所まで移動してきました。画家小沢さんの幻想的な絵と、作家梨木さんの美しいことばとともに、その足跡を辿ります。

## 学研まんがでよくわかるシリーズ117

### 下水道のひみつ

YHB編集企画 構成

学研プラス

生活で使った水（汚水）は、下水道管に流れます。下水道管があるおかげで私たちはきれいな街で生活できます。また、大雨になっても街に水があふれないのは下水道があるからです。出版社が学校図書館と公立図書館にのみ無償配布しているこの貴重な本を手にとって、下水道に詳しくなりましょう。



## 学研まんがでよくわかるシリーズ198

### 水を活かす技術のしくみ

YHB編集企画 構成

学研プラス

ポットに白い塊がついたり、置いていた水がぬるぬるした経験はありませんか。「水」に含まれる成分のためにおこる現象です。水を活かすために、使う目的に合わせて薬品を入れ、余計なものを取り除いたり、必要なものを加えたりしています。中学校の職場体験学習の前に読むのもおすすめ。



